



鍵盤楽器製作家・修復家

太田垣 至

フォルテピアノヤマモトコレクション、久保田チェンバロ工房にてオリジナルフォルテピアノ修復技術、鍵盤楽器製作技術を研鑽。

その後渡欧し、クリストファー・クラーク(仏)、アルブレヒト・ツェルニン(奥)、フィンチコックス博物館(英)、ブロードウッド&サンズ(英)、エドウィン・ブंक(蘭)のもとで修復、製作技術研鑽。

現在埼玉県の自身の工房でフォルテピアノ、クラヴィコードの製作・修復を行う。

浜松市楽器博物館、国立音楽大学楽器学資料館などの楽器管理を任されている。



2025年 太田垣至氏による製作

A.ワルター製 1795年頃

5オクターブ〈F₁-g³ 63鍵〉

ウィーン式アクション

楽器学資料館

国立音楽大学附属の博物館施設です。世界各地の楽器を約2600点所蔵。研究や教育にも活用しています。公開日はどなたでも見学できます。詳しくは公式Webサイトをご覧ください。

☎ 042-535-9574

🕒 事務受付日時
平日8:45~17:00



Webサイト



国立音楽大学創立100周年記念事業

くにおんフォルテピアノ 2025年度イベントスケジュール

主催：国立音楽大学楽器学資料館

くにおんフォルテピアノ

製作背景

楽器学資料館は、19世紀のフォルテピアノを多数所蔵していますが、鍵盤楽器の歴史を学ぶ授業での使用や演奏研究を目的に、演奏可能な18世紀後半のフォルテピアノが求められていました。この時代にウィーンで活躍し、高い評価を受けていたピアノ製作者のひとりにアントン・ワルターがいますが、ワルター製のオリジナルのピアノは現存数が限られているうえ、長い歳月が経過しているため演奏での使用を制約せざるを得ません。そこで、鍵盤楽器製作者で本学講師の太田垣至先生に、ワルターが1795年頃に製作し、現在ニュルンベルク博物館に所蔵されている楽器(MINe109)を複製いただきました。



A. Walter (1752-1826)
ウィーンで活躍した鍵盤楽器製作者。ワルターのピアノはモーツァルトやハイドン、ベートーヴェンにも愛用されていました。



くにおんのシンボルツリー

新校舎建設時にやむなく伐採された、本学のシンボルツリーを、譜面台や椅子に使用しました。

教育活用について

くにおんフォルテピアノは、サマースクールやコンサートといった本学100周年プレイベントのほか、授業等で教育・研究活用します。また、展示室公開日にはどなたでも試奏可能な日を設けます。



8/25(月)～8/29(金)

フォルテピアノサマースクール

本学学部生・院生、本学附属中高生向けに、フォルテピアノを学ぶ機会として、サマースクール(ソロ部門とアンサンブル部門)を開講します。参加者は期間中に専門の先生によるレッスンを受講し、最終日の修了演奏会で成果を発表します。聴講生も広く受け付けます(多数の場合は抽選)。

講師：平井千絵先生、飯島聡史先生



イベントスケジュール

4/18(金) 開演 18:30 開場 18:00

くにおんフォルテピアノお披露目コンサート

国立音楽大学講堂小ホール 無料/要申込

「フォルテピアノでの演奏体験を現代のピアノ演奏に活かす」をテーマにした久元祐子先生によるレクチャーコンサートです。ヴァイオリン、歌とのアンサンブルもお楽しみいただけます。



ピアノ
久元 祐子



ヴァイオリン
永峰 高志



ソプラノ
長島 剛子

6/27(金) 開演 18:30 開場 18:00

トマシュ・リッテル くにおんフォルテピアノリサイタル

国立音楽大学講堂小ホール 無料/要申込

第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクールに加え、古楽界で最も権威あるコンクールとされているブルージュ国際古楽コンクールでも第1位を受賞したリッテル氏によるコンサートをお見逃しなく!



トマシュ・リッテル

12/11(木) 開演 18:30 開場 18:00

フォルテピアノと探求する 古典派のピアノ作品

国立音楽大学講堂小ホール 無料/要申込

フォルテピアノ奏者として活躍される平井千絵先生に、くにおんフォルテピアノのほか、楽器学資料館所蔵のブロードウッド(1820年頃)、グラーフ(1830年代)計3台のピアノを演奏いただきます。鍵盤楽器製作者の太田垣至先生による解説もあります。



平井 千絵

チケット情報

無料チケットのお申込みが必要です。お申込み方法などの詳細は楽器学資料館Webサイトに随時掲載いたします。



Webサイト
イベントページ